出演団体

琉球王朝絵巻行列を彩る、13団体をご紹介



1 歌・三線隊（野村流保存会、野村流松村統絃会）

行列の先頭を務める歌・三線隊です。演奏曲「辺野喜節」は「波や風の音も止まれ、国王様のお顔を皆で拝みましょう」と讃える歌です。行進曲には「天川節」が使用されます。伝統の三線の音色と歌声をお楽しみください。



2 国王・王妃行列

アジアとの貿易で独自の文化を育んだ琉球王朝。本行列では「令和の首里城」復元を祝福し、新たな首里城が沖縄の歌史文化、地域の発展に寄与することを目的に開催されます。王朝文化を代表する芸能から民俗芸能まで多彩で華やかな王朝絵巻の世界をどうぞお楽しみください。



3 中国皇帝使節団行列

中国皇帝が冊封のために派遣した使節団（冊封使）は団長（正使）、副団長（副使）を中心に５００名におよびました。冊封使は御冠船（うかんせん）とよばれる船で東シナ海を渡り、現在の那覇港に入港。その後、首里城まで華麗にパレードしました。本行列は、その史実に基づいて構成されています。琉球と中国の交流は1372年から約500年間続きました。



4 四つ竹隊（沖縄芸能協会）

「四つ竹」は琉球王朝の芸能を象徴する古典女踊りです。紅型衣装に亜熱帯の花や海を描いた花笠をかぶり、手に持った四つ竹を打ち鳴らして踊ります。「晴れの席で皆様の前で踊れることは大変名誉でうれしいこと」という喜びの思いを表現します。



5 若衆隊（沖縄芸能協会）

琉球王朝では宮廷に仕える少年を若衆（わかしゅ）と呼び、この少年たちの踊りを「若衆踊り」と称しました。元服前の少年の踊りです。未来の長い若者が踊ることで、力強く未来を寿ぎます。踊りは四季口説（シキクドゥチ）。四季折々の季節を祝福する内容となっています。



6 ドゥジンカカン隊（沖縄芸能連盟）

琉球王朝時代の宮廷の女性の衣装であったドゥジンカカン。鮮やかな朱色のドゥジン、純白のカカンの装いの隊列が、琉球舞踊の技法である「こねり手・押す手」を用いて優雅に手踊りを披露します。



7 七福神（民俗芸能研究演舞会 嘉例吉＜かりゆし＞）

福徳の神である「七福神」、沖縄各地で村々を守護する神獣「獅子加那志」、「富貴長年」（ふうきちょうねん）、子孫繁栄の象徴である「長者の大主」一行が行進し踊りを披露します。大変おめでたい七福神の舞をご覧いただき大きな福をお受け取りください。



8 棒術・獅子舞隊（八重瀬町民俗芸能連絡協議会）

八重瀬町内15の民俗芸能保存団体で構成され、貴重な民俗芸能の保存・継承と後継者育成、地域間交流や町内外への魅力発信に取り組んでいます。今回は、棒術をはじめとする先人から受け継がれてきた技と心、そして地域文化の魅力を披露します。



9 空手隊（ニックス空手道場）

琉国正道館ニックス空手道場館長のラーニーニックス氏は、アメリカノースカロライナ州出身です。沖縄と世界中の空手家の人たちが、異なった文化を乗り越えて伝統沖縄空手の精進と飛躍を願い、共に鍛錬を継続する事を目標に活動しています。



10 鉦鼓・旗頭隊（瑞雲同好会・久場川町青年会）

首里を代表する重さ約70kgの旗頭「瑞雲」には、王家家紋や大龍柱があしらわれています。久場川町青年会の旗頭「延賢同楽」は1995年に制作され、「歴史と伝統を受け継ぎ、町民みんなが誇りにできる町を作りたい」という願いが込められています。



11 伝統エイサー隊（平敷屋エイサー保存会）

平敷屋では明治時代以前から、旧盆になると青年たちがエイサーを踊っていたと伝えられています。平敷屋エイサーは念仏踊りの流れを汲んでいると言われ、太鼓打ちの装束と踊りの型が独特であり、その装束は浄土宗の僧侶の袈裟に似ていると言われ、本来は裸足で踊ります。



12 いちゃりばちょーでー隊（一般参加者）

「いちゃりばちょーでー」とは「一度出会えば皆兄弟」という意味の沖縄の言い伝えです。首里城復興を共に喜び、全国からご参加の有志の皆さんが心を一つに、沖縄に古くから伝わる童歌「赤田首里殿内（あかたすんどぅんち）」の手踊りを披露します。



13 伝統エイサー隊（中の町青年会）

中の町エイサーは、伝統の形を残しつつ、曲のテンポや足の踏み込みなどに変化を施し、新たな動きを織り交ぜながら独自の型を再構築してきました。躍動感あふれる大太鼓と締太鼓、力強い男性陣の踊り、女性のみで唄い踊る「赤田首里殿内」が見どころです。